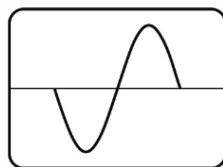


SCIENCE AMPLIFICATION



MOTHER PREAMP



USER MANUAL

Contents

Intro	1
Powering the Pedal	1
Ins and Outs	1
Operating Modes	2
In front of a guitar or bass amp	2
Into a power amp or recording interface	3
Controls	4
Technical Specs	5
Warranty	5

Intro

Mother Preampペダルをご購入いただきありがとうございます！このマニュアルはMother Preampの機能、使用方法、スペックを詳細に解説します。貴方が新しいデバイスに慣れるための便利なTipsもご紹介します。

Mother PreampはMother Dual Channelアンプのフルチューブのトーンと機能を完全に再現のため、入念に設計されました。真空管の代わりに電界効果トランジスタ (fet)を使用した完全アナログのシグナルパスにより、特徴的なアナログトーンが達成されています。Mother Preampはギターやベースアンプにそのまま接続するのに加えて、録音インターフェースへの直接接続（キャビネットシミュレーションとの併用）も可能です。このデバイスの中でたくさんの実用的なトーンを見つけていただけたら嬉しいです。

そしてこのMotherをペダルサイズへ収めるという密接なコラボレーションを実現してくれたElectronic Audio ExperimentsのJohn Synderにも感謝を述べたいと思います。

- Alex, Science Amplification

Powering the Pedal

Mother Preampは標準的な2.1mmチップ9VDCセンターマイナスの電源で動作します。最大の消費電流は150mAです。過電圧や逆極性の電源が接続された場合は、保護機能が働きペダルは動作しません。他のペダルと同時に使う場合は、ノイズ低減のためアイソレートされた電源を使用することを推奨します。

Ins and Outs

- **Input:** 楽器、または他のペダルからの信号を接続するハイ・インピーダンスのモノラル入力。
- **Channel Switch:** Channel AとBを切り替える外部スイッチ（別売）の接続端子。モーメンタリー、ノーマリーオープン。Mother Preampの配置を自由にし、パワーアンプの上やデスクトップでの使用時に便利です。

- **Power Amp/Direct Out:** パワーアンプ、またはスピーカーエミュレーションを併用した録音インターフェースへ接続するモノラル出力。詳細はOperating Modesを御覧ください。
- **Output:** ギターやベースアンプの入力へ接続するモノラル出力。詳細はOperating Modesを御覧ください。

Operating Modes

ペダルのコントロールについて知る前に、まずは基本的な2つの使用方法について解説します。

1. Outputジャックを使って、ギターやベースアンプと使用する
2. Power Amp / Direct Outジャックを使って、パワーアンプや録音インターフェースと使用する

Mother Preampには独立した2つの出力端子があり、どちらの使用方法でも快適に動作します。

ギター/ベースアンプの前で使用する

ほとんどの楽器用アンプは高音と低音を強調し、中域はアンプによって様々ですがカット/スクープされています（そう、「中域重視」なんて言われてるアンプでもね）。このEQカーブはギターやベースのピックアップからのサウンドを更にエンハンスし、良くも悪くも私達が「自然な」または「ニュートラルな」ギターサウンドと慣れ親しんでいるものなのです。

Mother Preampはこの本物のアンプの音色レスポンスを（独自のEQカーブによって）完全に再現していますが、その入念に設計されたEQカーブとユニットをギター/ベースアンプに直接接続するとどうなるでしょう？本質的には、2つのEQが並ぶことになりません。ベース、トレブル、ミッドスクープはそれぞれ2重になるのです。ほとんどの状況ではEQは過剰になり、制御が難しくなってしまいます（もちろんこれは主観です）。Mother PreampのOutputはこれを解決するため、貴方の既存のプリアンプと最高の組み合わせを発揮するように設計されています。ペダルのEQを全て有効にしつつ、ブーミー過ぎ、スクープされ過ぎ、ギャリギャリ過ぎることはありません。

Outputジャックからギター/ベースアンプに接続する方法では、いくつかの使用シチュエーションが考えられます。まず始めるのに良いアイデアをご紹介します。

- Channel Aをクリーンアンプのブースト/マイルドなブレイクアップ、Channel Bをよりヘヴィなオーバードライブとして使用。貴方のアンプが3チャンネルに！
- Channel Aを常にオンの"トーンエンハンサー"として使用。音楽的なEQ補正に。Channel Bはブースト/オーバードライブとして。
- 歪んだアンプへ接続して極限のオーバードライブ/ディストーションサウンドへ。歪みをスタッキングするとヒス/ノイズレベルも上がりますが、様々に実験してみてください。

Mother Preampを貴方の既存のプリアンプと組み合わせると、非常にユニークなトーンを作り出せます。既存のアンプサウンドをより正確に再現したい場合は、Mother Preampをもう1つの方法で使うと良いでしょう。

パワーアンプ/録音インターフェースと使用する

この使用法はPower Amp/ Direct Out (Pwr Amp / Dir Out)と表記されているジャックを使用します。出力はフィルタリングなし、Motherアンプ本来のフルスペクトラムのレスポンスとなります。前述のモードに対して、このモードはスピーカーキャビネットを駆動するパワーアンプ、または録音インターフェースといった"フラットな"、色付けのないデバイスへの接続が想定されています。このモードで想定される使用シチュエーションは以下の3つのです。

1. パワーアンプへ接続: Mother Preampをパワーアンプをドライブさせるため使用。Loudnessは最小値から始め、プレイしながらパワーアンプの入力がクリップしないところまで上げて下さい。次に少しだけLoudnessを下げて、パワーアンプ自体にある全体のボリュームを調整しましょう。Mother PreampはアンプのEQカーブをそのまま再現しているため、パワーアンプ自体のEQはフラット（大体は12時）にして、その後好みに調整しましょう。
2. アンプのエフェクトループ/リターンジャックへ接続: 上記と同様ですが、パワーアンプのEQにPresenceやResonanceといったツマミがあったら、まずは最小にしてその後好みに調整しましょう。この場合は独立したパワーアンプEQとは少し異なるサウンドになり、またフラットな設定もおそらく12時では無いはずです。上記と同様Loudnessは最小値から始め、少しずつ上げましょう。アンプのエフェクトループの設計によりますが、ボリューム後の配置の場合はすぐにボリュームが大きくなるので注意して下さい！
3. 録音インターフェースへ接続: インターフェースのハイ・インピーダンス入力へ接続。インターフェースと使用すると、Mother PreampはDAWへのダイレクトレコーディング機器（または単純に遊ぶ/練習用）として使用できます。

必ずスピーカー/キャビネットエミュレーションを行うソフトウェアやプラグイン、IRと併用してください。Power Amp/ Direct Outジャックは限りなくリアルな真のアンプサウンドを再現しているため、実際のアンプ同様最高のトーンのためにはスピーカーによる色付けが必要です。ScienceもIRデータを無料提供しています。

<https://www.scienceamps.com/irs.html>

Controls

Gain A: Channel Aのプリアンプゲインを設定します。最もクリーンなサウンドには、ピックアップの出力レベルにもよりますが多くの場合は12時以下になるはずで、Channel Aはほとんどのピックアップでキレのあるクリーンからブレイクアップ、そしてホットなピックアップではビンテージなクランチトーンとなります。

Gain B: Channel Bのプリアンプゲインを設定します。このチャンネルはクリーンから改造マーシャル的サウンド、様々な質感を通過したハイゲイントーン、そしてホットなピックアップとブーストを組み合わせれば、スーパーに飽和したモダンハイゲインまで幅広くアクセスできます。

Loudness A & B: 各チャンネルのボリューム制御です。全体のボリューム調整、または各チャンネルのレベルバランス設定として使えます。

Depth: 両チャンネルのフロントエンドの低域成分を制御します。接続する楽器のピックアップへのプリアンプの反応性を微調整したり、オーバードライブの"タイトさ"を設定します。Depthはプリアンプのオーバードライブステージ前の低域フリークエンシーを調整するため、歪みのフィーリングやスムーズさにも影響します。12時がフラット、反時計回しでスッキリタイトなサウンド、時計回しでファットかつルーズになります。

Absence: 時計回しで特に歪んだサウンドで顕著なアッパーハーモニクス成分を低減させます。反時計回しでトップエンドにバイト感を追加、サウンドを際立たせます。

Bass: 時計回しで両チャンネルの低域を増加、反時計回しで低減させます。Depthとは異なりこのコントロールはオーバードライブステージの後に配置されているため、全体のキャラクターに影響すること無く"クリーンな"ベースを信号へ追加できます。

Middle: 時計回しで両チャンネルの中域を増加、反時計回しで低減させます。

Treble: 時計回しで両チャンネルの高域を増加、反時計回しで低減させます。

Bypass/Mute Indicator: 中央のLEDでOutput接続時のオン、またはPower Amp /Direct Out接続時のアンミュートを表示します。

Channel Indicator: 各チャンネルのLoudnessコントロール横のLEDで、どちらのチャンネルが選択されているかを表示します。

Technical Specs

- 電源: 9VDCセンターマイナス、最大150mA
- 入力インピーダンス: 1M @ 1k Ω
- 出力インピーダンス: 1k Ω < 500 Ω
- バイパス: リレースイッチング、トゥルーバイパス (Power Amp / Direct Out接続時はミュート)
- サイズ: 145mm x 121mm x 39mm

Warranty

Science pedals feature a lifetime warranty for the original owner. Please see our website www.scienceamps.com for more details and contact information.